
2013年度 桃山学院大学生の
学生生活上の諸活動に関する実態調査

■本調査について

多様化する学生の実態を把握することは、学生サービスの更なる充実に繋がるとともに、大学の自己点検・自己評価の指針として重要である。

そこで本学では、1994年より毎年1回、ポイントを絞った形で独自の学生生活実態調査を実施している。94年度は奨学金制度の改革および特に下宿生へのサポート体制の確立に向けた資料作りとして「経済状況調査」を実施し、翌95年度は和泉新キャンパス移転に伴う学生生活の環境変化およびクラブ・サークル活動、大学祭など正課外のキャンパスライフおよびイベントへの関心度を探る「課外活動に関する実態調査」を実施、また96年度は大学への登校時刻・出席コマ数から食事のとり方、趣味・嗜好品、悩み事までいたる「個人生活」について実施した。各々の調査結果は「下宿物件の開拓」「奨学金制度の改革」「学生福利厚生等施設の建設」などに生かされたほか、「自由回答」にある様々な「声」を大学として責任をもって受け止め、それに応える機関としての「わたしの提案箱（A.C.C）制度」の実施（1998年度から発足）など、学生サービス諸施策の立案や制度改革に取り組み、一定の成果を上げてきた。

それから十数年が経過した現在、課外活動分野の調査のみならず、学生生活における正課活動の「位置づけ」から個々の諸活動にまで項目を掘り下げ、本学学生をとりまくすべての環境と動向について調査を行った。

■調査の概要

○調査期間：2014年1月16日（木）

○調査方法：講義時間の冒頭に出席者に用紙を配布し、記入後回収

○調査対象：木曜2時限目開講科目のうち、以下3講義を履修した学部学生918名

（内訳：経済242名、社会225名、経営169名、国際教養（文含む）140名、法学部142名）

- ・健康・スポーツ学講義〔2〕－健康づくりのためのレクリエーション <秋>
- ・世界市民－環境・人権・国際理解 02<秋>
- ・共通教養特別講義－子どもと法 02<秋>

○有効回答者数：423名（回答率：46.1%）

○表記方法：各設問の回答結果を視覚的に把握できるように、択一式の設問は円グラフにより割合（四捨五入の関係で構成比と合計が一致しないことがある）を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示した。

1 学業について

資格課程
進路

2 課外活動について

クラブ・サークルへの加入状況
クラブ・サークルの満足度
ボランティア活動

3 経済・生活状況について

学費
奨学金
奨学金の必要度
現在の住居
アルバイト
携帯電話

4 読書について

本学図書館の利用状況
読書に要する費用（1 ヶ月）
読書量（1 ヶ月）
読書に費やす時間（1 日）



5 悩み・健康について

現在の関心事
現在の悩み
困ったとき、悩んだ時の相談相手
日頃のストレス
日頃の健康
健康についての気遣い
飲酒
喫煙
嫌煙
睡眠時間
食生活
朝食

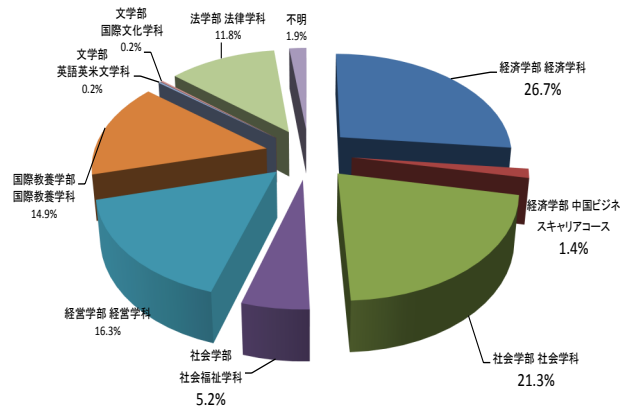
6 情報関連について

パソコン保有状況
ワープロ習得状況
パソコンの主たる利用目的
インターネットの利用
本学ホームページの利用
本学情報センター自習室の利用
本学からの情報
本学から送信されるメール
M-port
Campus Guide
情報の確認手段

回答者の基礎資料（フェイス）

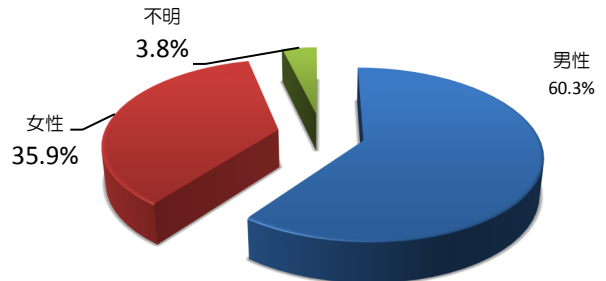
○所属学部・学科

	学部・学科	人数	構成比
1	経済学部 経済学科	113	26.7%
2	経済学部 中国ビジネスキャリアコース	6	1.4%
3	社会学部 社会学科	90	21.3%
4	社会学部 社会福祉学科	22	5.2%
5	経営学部 経営学科	69	16.3%
6	国際教養学部 国際教養学科	63	14.9%
7	文学部 英語英米文学科	1	0.2%
8	文学部 国際文化学科	1	0.2%
9	法学部 法律学科	50	11.8%
99	不明	8	1.9%
	合計	423	100.0%



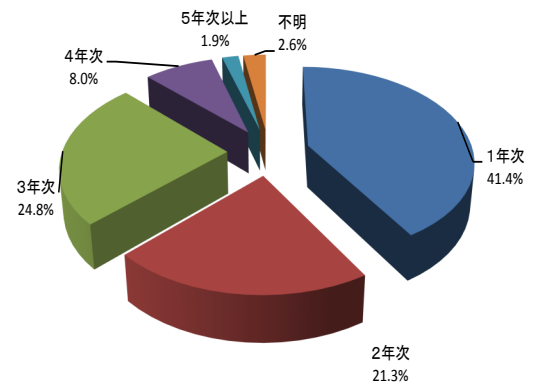
○性別

	性別	人数	構成比
1	男性	255	60.3%
2	女性	152	35.9%
99	不明	16	3.8%
	合計	423	100.0%



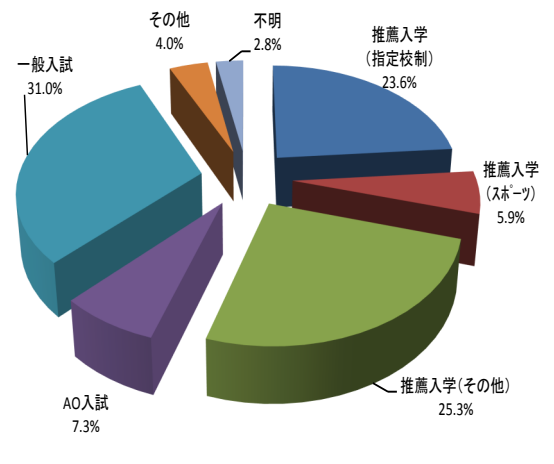
○年次

	年次	人数	構成比
1	1年次	175	41.4%
2	2年次	90	21.3%
3	3年次	105	24.8%
4	4年次	34	8.0%
5	5年次以上	8	1.9%
99	不明	11	2.6%
	合計	423	100.0%



○入試制度

	入試制度	人数	構成比
1	推薦入学（指定校制）	100	23.6%
2	推薦入学（スポーツ）	25	5.9%
3	推薦入学（その他）	107	25.3%
4	AO入試	31	7.3%
5	一般入試	131	31.0%
6	その他	17	4.0%
99	不明	12	2.8%
	合計	423	100.0%



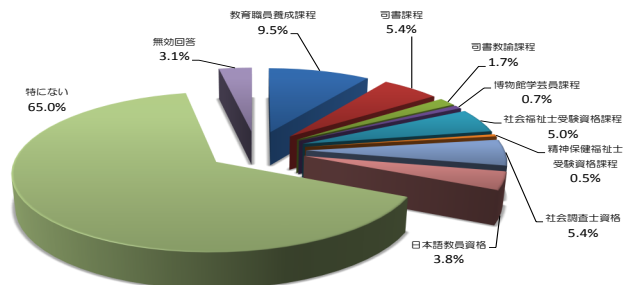
学業について

Q.1 本学で一番取得したい資格課程は？

例年通り「特にない」が過半数を占めるという残念な結果となった。「社会福祉士受験資格課程」が前年比△7.0ポイントと大幅な減少となったが、これは受講希望者減少というよりも、昨年度に比べて、回答者における社会福祉学科生の

割合が大きく減少していることが要因であると考えられる。また、「司書課程」は2008年度調査では13.7%で最も人気の高い資格課程であったにも関わらず、年々割合が低下し、現在は5.4%と低い割合となっている。

	取得したい資格課程	回答数	構成比
1	教育職員養成課程	40	9.5%
2	司書課程	23	5.4%
3	司書教諭課程	7	1.7%
4	博物館学芸員課程	3	0.7%
5	社会福祉士受験資格課程	21	5.0%
6	精神保健福祉士受験資格課程	2	0.5%
7	社会調査士資格	23	5.4%
8	日本語教員資格	16	3.8%
9	特にない	275	65.0%
99	無効回答	13	3.1%
合計		423	100.0%

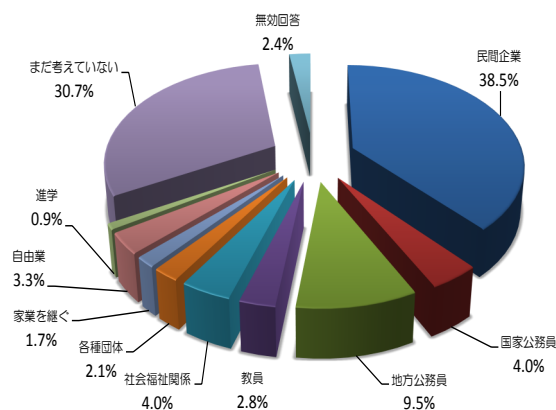


Q.2 卒業後の進路希望は？

昨年度調査に引き続き、民間企業就職希望者が最も割合が高い結果となった。また1年次生の回答割合が多いことが影響してか、「まだ考えていない」との回答も次いで大きな割

合を占めた。一方で公務員（国家・地方）希望者が前年比△5.4ポイントと減少した。

	卒業後の進路希望	回答数	構成比
1	民間企業	163	38.5%
2	国家公務員	17	4.0%
3	地方公務員	40	9.5%
4	教員	12	2.8%
5	社会福祉関係	17	4.0%
6	各種団体	9	2.1%
7	家業を継ぐ	7	1.7%
8	自由業	14	3.3%
9	進学	4	0.9%
10	まだ考えていない	130	30.7%
99	無効回答	10	2.4%
合計		423	100.0%

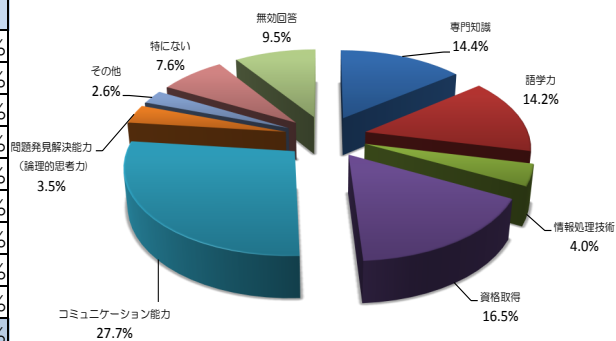


Q.3 自分の進路のために一番身につけたいものは？

2009年からそれまで最も割合の高かった「資格取得」を「コミュニケーション能力」が上回るようになっており、今回も同様の結果となった。昨今の就職活動においては、学業

成績や資格修得よりも、大学生活の過ごし方や採用面接を重要視する企業が多くなっていることが原因の一つと考えられる。

	自分の進路のために一番身につけたいもの	人数	構成比
1	専門知識	61	14.4%
2	語学力	60	14.2%
3	情報処理技術	17	4.0%
4	資格取得	70	16.5%
5	コミュニケーション能力	117	27.7%
6	問題発見解決能力（論理的思考力）	15	3.5%
7	その他	11	2.6%
8	特にない	32	7.6%
99	無効回答	40	9.5%
合計		423	100.0%



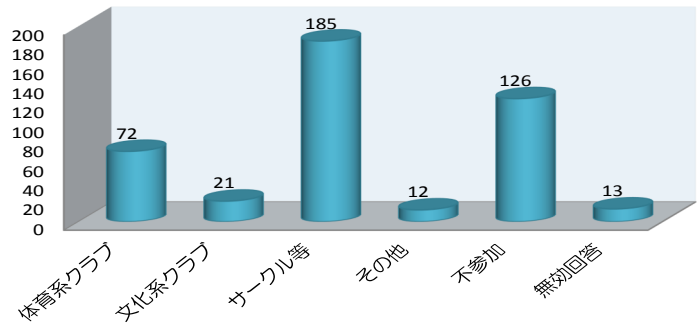
課外活動について

Q.4 所属クラブはどこですか？ ※複数選択可

近年では「活動時間が多い」「上下関係が厳しい」イメージのある体育系・文化系クラブへの加入者数は減少傾向にある。

一方で、時間的拘束が少ないイメージのある同好会などのサークル加入者数は増加する傾向にある。

	所属クラブ	人数
1	体育系クラブ	72
2	文化系クラブ	21
3	サークル等	185
4	その他	12
5	不参加	126
99	無効回答	13
合計		429

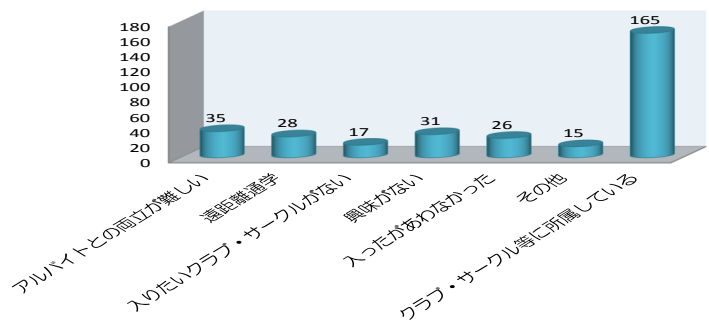


Q.5 不参加の理由は？ ※複数選択可

最近の調査では、「アルバイトとの両立が難しい」「遠距離通学」など、課外活動には興味があるにもかかわらず、経

済的理由で参加できない割合がやや増加傾向にある。

	不参加の理由は？	人数
1	アルバイトとの両立が難しい	35
2	遠距離通学	28
3	入りたいクラブ・サークルがない	17
4	興味がない	31
5	入ったがあわなかった	26
6	その他	15
7	クラブ・サークル等に所属している	165
合計		317

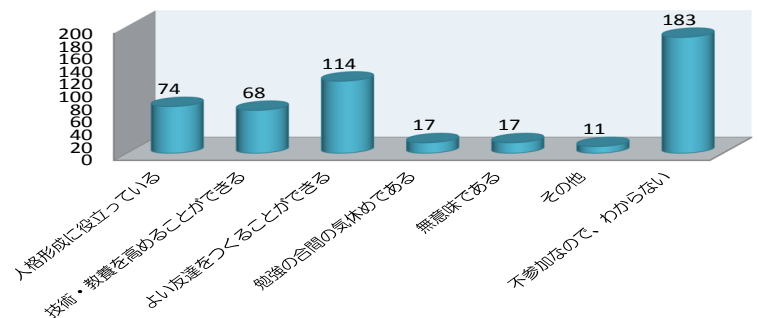


Q.6 クラブ活動にはどんな効果があると思いますか？ ※複数選択可

前回までの調査と同様、活動自体から得られる能力向上よりも「よい友達をつくることができる」「人格形成に役立っている」などの副次的効果に満足を感じる学生が多い結果となった。言うまでも無く、クラブ・サークル活動は、多くの

学生が高めたいと感じている「コミュニケーション能力」の向上に効果的であり、課外活動への参加は学生にとって有益であるといえる。引き続き課外活動支援を強化していきたい。

	クラブ活動は？ ※複数回答可	人数
1	人格形成に役立っている	74
2	技術・教養を高めることができる	68
3	よい友達をつくることができる	114
4	勉強の合間の気休めである	17
5	無意味である	17
6	その他	11
7	不参加なので、わからない	183
合計		484



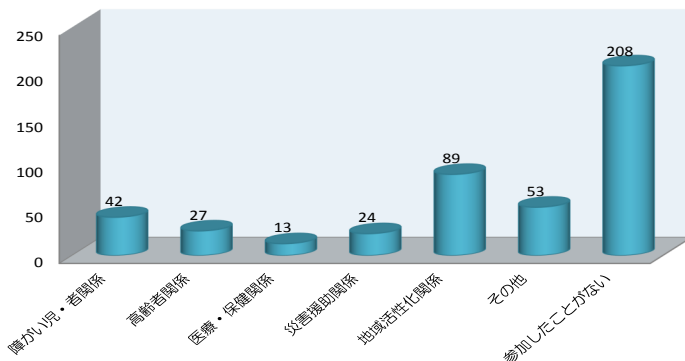
課外活動について

Q.7 今までにどのようなボランティア活動に参加したことがありますか？ ※複数選択可

参加経験「有」のなかでは、昨今需要の高い「地域活性化関係」のボランティア活動が上位となった。一方「参加したことがない」学生が半数近くを占めているので、本学のボラ

ンティア活動支援室を通じ、積極的にボランティア紹介を行なっていきたい。

	今までにどのようなボランティア活動に参加したことがありますか。 ※複数回答可	
1	障がい児・者関係	42
2	高齢者関係	27
3	医療・保健関係	13
4	災害援助関係	24
5	地域活性化関係	89
6	その他	53
7	参加したことがない	208
合計		456



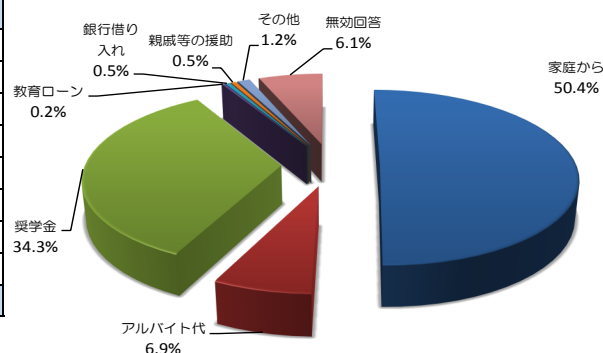
経済・生活状況について

Q.8 学費納入手段として主に考えているものは何ですか？

学費支弁の手段として「奨学金」の割合が年々増加しており、2008年調査結果では24.4%であった割合が、今回調査では34.3%に達している。反対に「家庭から」の割合は、

2008年調査では70.4%であった割合が、今回調査では50.4%と年々減少傾向にあり、厳しい経済状況がうかがえる。

	学費納入手段として主に考えているもの	人数	構成比
1	家庭から	213	50.4%
2	アルバイト代	29	6.9%
3	奨学金	145	34.3%
4	教育ローン	1	0.2%
5	銀行借入れ	2	0.5%
6	親戚等の援助	2	0.5%
7	その他	5	1.2%
99	無効回答	26	6.1%
合計		423	100.0%

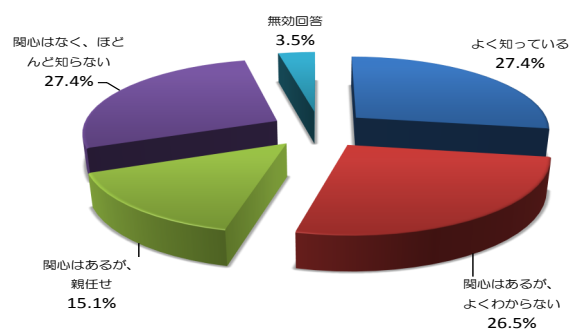


Q.9 本学の奨学金制度についてどの程度知っていますか？

昨年度調査に比べ「よく知っている」の割合が若干増加したものの、「関心はあるが、よくわからない」の割合も同程

度を占めている。大学としては、引き続きわかりやすい説明と周知方法を心掛けていきたい。

	本学の奨学金について	人数	構成比
1	よく知っている	116	27.4%
2	関心はあるが、よくわからない	112	26.5%
3	関心はあるが、親任せ	64	15.1%
4	関心はなく、ほとんど知らない	116	27.4%
99	無効回答	15	3.5%
合計		423	100.0%



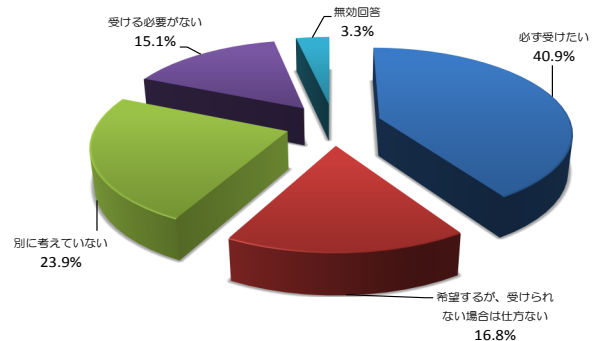
経済・生活状況について

Q.10 奨学金の必要度はどのくらいですか？

奨学金については「必ず受けたい」割合が高いのが特徴である。代表的な奨学金である日本学生支援機構奨学金は、国が予算枠を拡大していることもあり、有利子である「第二種奨学金」の採用率はほぼ100%になっている。また、学業不

振などによって同奨学金の利用ができない学生に対して本学では、民間金融機関と提携し低金利で貸与を受けられる教育ローンを紹介するなどして対応している。

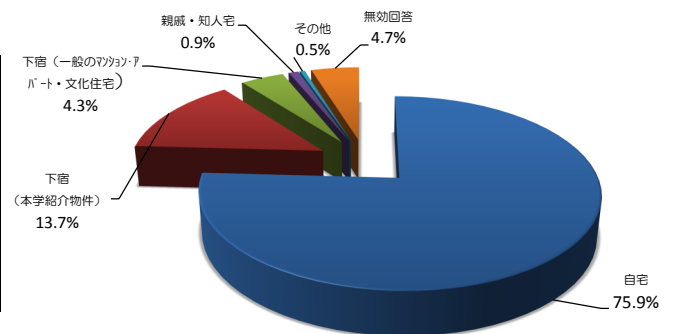
奨学金の必要度	人数	構成比
1 必ず受けたい	173	40.9%
2 希望するが、受けられない場合は仕方ない	71	16.8%
3 別に考えていない	101	23.9%
4 受ける必要がない	64	15.1%
99 無効回答	14	3.3%
合計	423	100.0%



Q.11 現在の住居形態は何ですか？

経済的理由から下宿学生は近年減少傾向にあるが、今回は若干増え18%となった。

現在の住居は？	人数	構成比
1 自宅	321	75.9%
2 下宿（本学紹介物件）	58	13.7%
3 下宿（一般のマンション・アパート・文化住宅）	18	4.3%
4 親戚・知人宅	4	0.9%
5 その他	2	0.5%
99 無効回答	20	4.7%
合計	423	100.0%

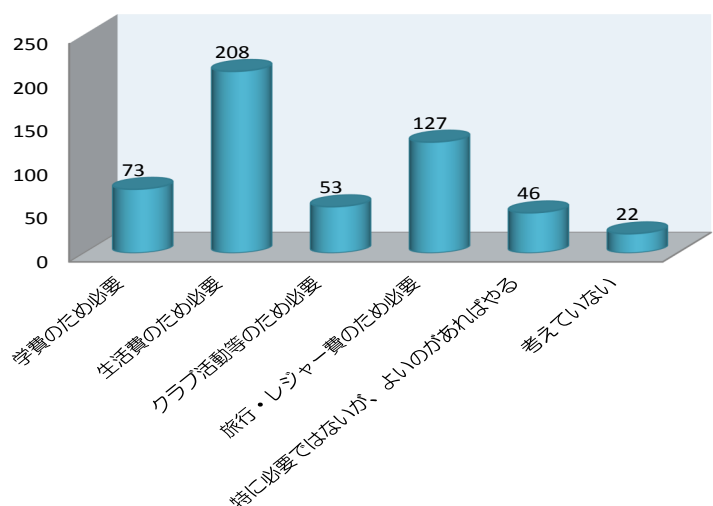


Q.12 アルバイトは必要ですか？ ※複数回答可

近年アルバイトについては「学費のため必要」、「生活費のため必要」の割合が高くなっており、学生の厳しい経済事

情がうかがえる。ただし、過度なアルバイトは学業に支障をきたす恐れがあり、注意が必要である。

アルバイトは必要？ ※複数回答可	人数
1 学費のため必要	73
2 生活費のため必要	208
3 クラブ活動等のため必要	53
4 旅行・レジャー費のため必要	127
5 特に必要ではないが、よいがあればやる	46
6 考えていない	22
合計	529

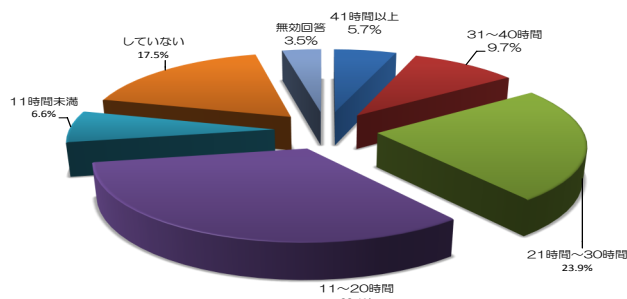


経済・生活状況について

Q.13 1週間のアルバイト時間は？

今年度調査より追加した項目である。週30時間未満が半数以上の割合を占める結果となったが、週30時間超の学生も15.4%と多数存在し、学業への支障が懸念され注意が必要である。

	1週間のアルバイト時間は？	人数	構成比
1	41時間以上	24	5.7%
2	31～40時間	41	9.7%
3	21～30時間	101	23.9%
4	11～20時間	140	33.1%
5	11時間未満	28	6.6%
6	していない	74	17.5%
99	無効回答	15	3.5%
	合計	423	100.0%

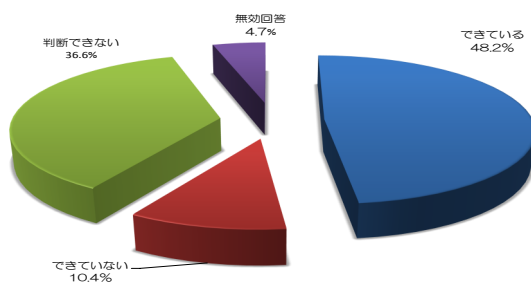


Q. 14 学業とアルバイトの両立について

今年度調査より追加した項目である。両立ができている学生が半数近い割合を占める結果となった。一方、両立できていない学生も44件と多数存在した。「Q13」アルバイト時

間との因果関係は立証できないものの、過度なアルバイトには注意が必要である。

	学業とアルバイトの両立について	人数	構成比
1	できている	204	48.2%
2	できていない	44	10.4%
3	判断できない	155	36.6%
99	無効回答	20	4.7%
	合計	423	100.0%

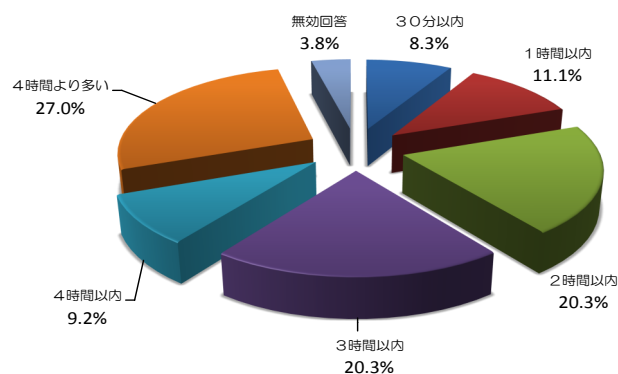


Q.15 1日の携帯電話の利用時間はどのくらいですか？（通話・メール作成時間を含む）

2009年度調査より追加した項目である。2時間以上携帯電話を使用している学生が半数以上を占める結果となった。また4時間以上の使用が最も割合が高く、日常生活で欠かす

ことのできないツールとなっているようである。

	1日の携帯電話の利用時間（通話時間やメール作成などを含む）	人数	構成比
1	30分以内	35	8.3%
2	1時間以内	47	11.1%
3	2時間以内	86	20.3%
4	3時間以内	86	20.3%
5	4時間以内	39	9.2%
6	4時間より多い	114	27.0%
99	無効回答	16	3.8%
	合計	423	100.0%

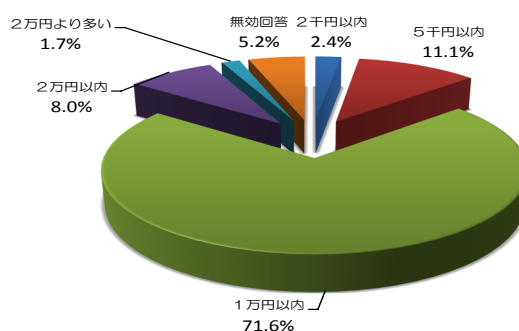


経済・生活状況について

Q.16 1カ月の携帯電話の利用料金はいくらくらいですか？

利用料金については、大きな変化は見られず前回とほぼ同じ結果となった。ほとんどの利用者が定額制の契約を結んで

	1ヶ月の携帯電話の利用料金	人数	構成比
1	2千円以内	10	2.4%
2	5千円以内	47	11.1%
3	1万円以内	303	71.6%
4	2万円以内	34	8.0%
5	2万円より多い	7	1.7%
99	無効回答	22	5.2%
合計		423	100.0%

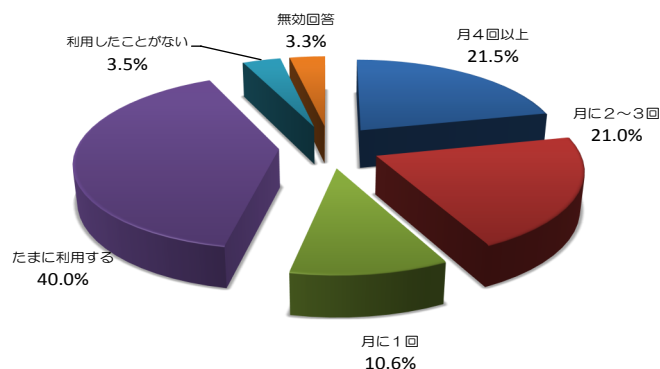


読書について

Q.17 本学の図書館をどのくらいのペースで利用しますか？

数年前までは「月4回以上」の割合が最も高かったが、「たまに利用する」の割合が毎年増加し、前回調査に引き続き今回も最も高い割合を占め、学生の図書館離れが進んでいる状況である。

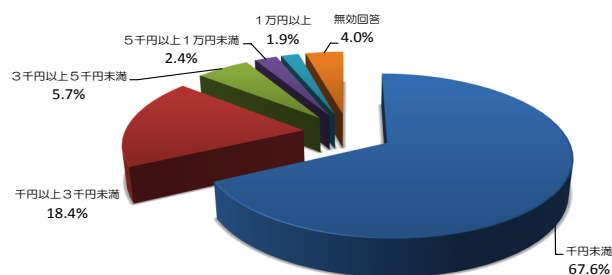
	本学図書館の利用は？	人数	構成比
1	月4回以上	91	21.5%
2	月に2～3回	89	21.0%
3	月に1回	45	10.6%
4	たまに利用する	169	40.0%
5	利用したことがない	15	3.5%
99	無効回答	14	3.3%
合計		423	100.0%



Q.18 1カ月の読書に要する費用はいくらですか？

昨年度調査に比べ「千円未満」の割合が微増し多数を占める結果となった。前項の結果も含め、学生の読書に対する意識低下が読み取れる。

	読書に要する費用は？（1ヶ月）	人数	構成比
1	千円未満	286	67.6%
2	千円以上3千円未満	78	18.4%
3	3千円以上5千円未満	24	5.7%
4	5千円以上1万円未満	10	2.4%
5	1万円以上	8	1.9%
99	無効回答	17	4.0%
合計		423	100.0%



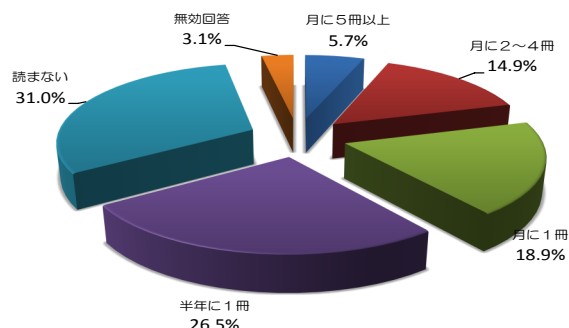
読書について

Q.19 本を読むペースはどのくらいですか？

本項目も学生の読書離れが如実に反映される結果となった。文化庁の実施した「平成20年度の国語に関する世論調査」（1ヶ月に何冊の本を読むか）の20代の調査結果と比較すると、「読まない」および「半年に1冊読む」の合計割合

は全国平均38.0%に対し本学は57.5%、「月に1冊読む」および「月に2～4冊読む」の合計割合は全国平均51.3%に対し本学は33.8%、「月に5冊以上読む」の割合は全国平均10.2%に対し本学は5.7%と、読書量が少ない状況である。

本をどのくらい読みますか。	人数	構成比
1 月に5冊以上	24	5.7%
2 月に2～4冊	63	14.9%
3 月に1冊	80	18.9%
4 半年に1冊	112	26.5%
5 読まない	131	31.0%
99 無効回答	13	3.1%
合計	423	100.0%

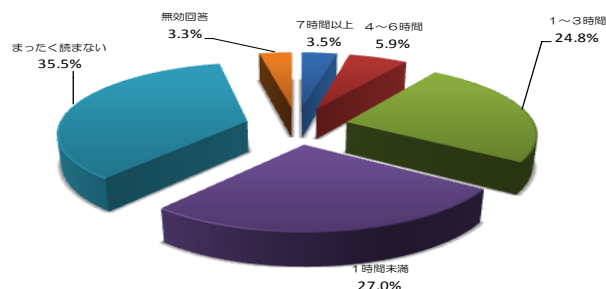


Q.20 1日に読書に費やす時間はどのくらいですか？

昨年度調査と比べ「まったく読まない」は+5.4ポイントと増加し、一方「1時間以上」は△6.9ポイントと減少する等、読書に費やす時間についてもこれまでの調査結果と同様

に、学生の読書離れを裏付ける結果となった。

読書に費やす時間は？（1日）	人数	構成比
1 7時間以上	15	3.5%
2 4～6時間	25	5.9%
3 1～3時間	105	24.8%
4 1時間未満	114	27.0%
5 まったく読まない	150	35.5%
99 無効回答	14	3.3%
合計	423	100.0%

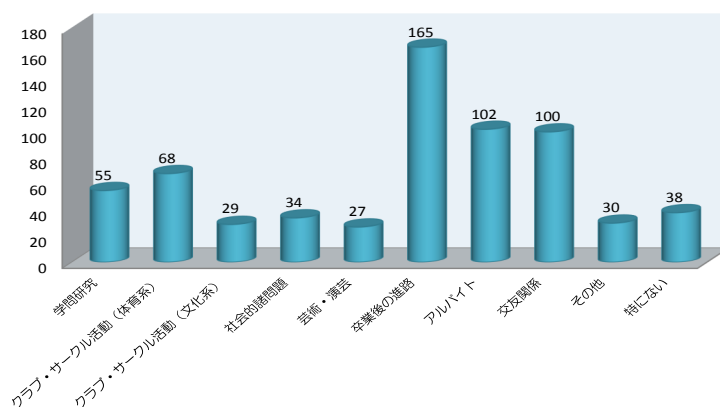


悩み・健康について

Q.21 現在の関心事は何ですか？ ※複数回答可

現在の関心事については、前回調査までと同様に「卒業後の進路」の回答数が最も多く、「アルバイト」「交友関係」がそれに続いた。

現在の関心事は？ ※複数回答可	人数
1 学問研究	55
2 クラブ・サークル活動（体育系）	68
3 クラブ・サークル活動（文化系）	29
4 社会的諸問題	34
5 芸術・演芸	27
6 卒業後の進路	165
7 アルバイト	102
8 交友関係	100
9 その他	30
10 特になし	38
合計	648



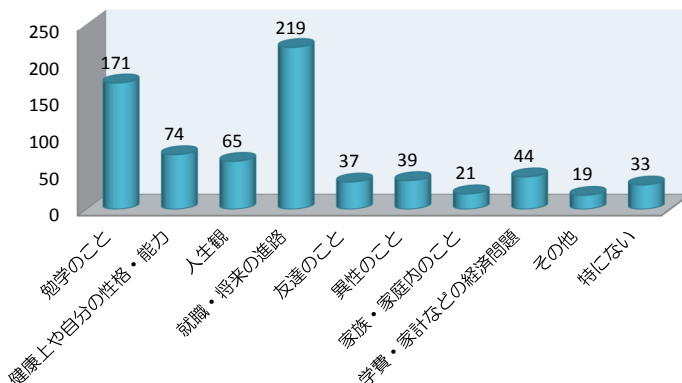
悩み・健康について

Q.22 今悩んでいることはありますか？ ※複数回答可

本設問でも前回までの調査と同様に「就職・将来の進路」の回答数が最も多くなった。進路については高い関心項目であると同時に、多くの学生にとって悩みの種となっている。

また2013年4月より「学習支援センター」が教室棟1号館に設置され、「勉学」に関する相談窓口の充実化を図った。

現在の悩みは？ ※複数回答可	人数
1 勉学のこと	171
2 健康上や自分の性格・能力	74
3 人生観	65
4 就職・将来の進路	219
5 友達のこと	37
6 異性のこと	39
7 家族・家庭内のこと	21
8 学費・家計などの経済問題	44
9 その他	19
10 特にない	33
合計	722

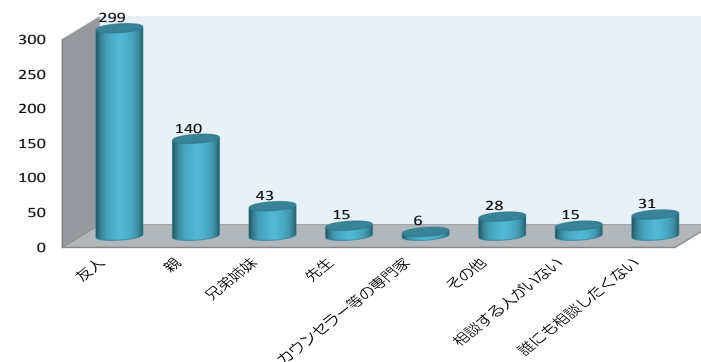


Q.23 困ったとき、悩んだ時は誰に相談しますか？ ※複数回答可

本設問でも「友人」が最も多く、次いで「親」「兄弟姉妹」が続くという、例年と同様の結果となった。本学では学生相談室での窓口対応や、電話による健康・メンタル相談を

24時間行えるよう「健康相談24時」を設置し、学生相談の体制を整え、受け皿の多様性を図っている。

困ったとき、悩んだ時の相談相手は？ ※複数回答可	人数
1 友人	299
2 親	140
3 兄弟姉妹	43
4 先生	15
5 カウンセラー等の専門家	6
6 その他	28
7 相談する人がいない	15
8 誰にも相談したくない	31
合計	577

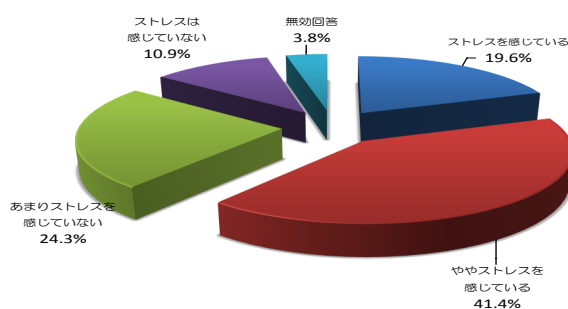


Q.24 日頃ストレスを感じますか？

2008年度より追加した項目である。今回調査でも「ストレスを感じている」「ややストレスを感じている」の合計が61.0%と高い割合となっている。常日頃からストレスを感

じている分「Q23」のとおり身近な相談相手が重要となっている。

日頃のストレスについて	人数	構成比
1 ストレスを感じている	83	19.6%
2 ややストレスを感じている	175	41.4%
3 あまりストレスを感じていない	103	24.3%
4 ストレスは感じていない	46	10.9%
99 無効回答	16	3.8%
合計	423	100.0%

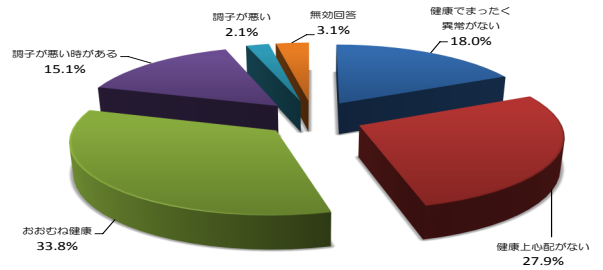


悩み・健康について

Q.25 自分の健康状態をどのように感じていますか？

前回調査までと大きな変化は見られない。「おおむね健康」の割合が33.8%と最も高く、「健康でまったく異常がない」「健康上心配がない」と合計すると、約8割の学生は健康上特に問題はないと捉えているようである。

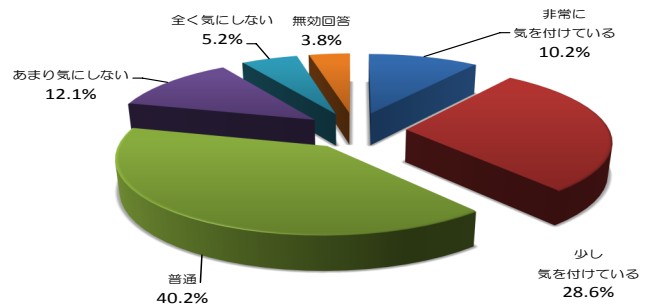
日頃の健康について		人数	構成比
1	健康でまったく異常がない	76	18.0%
2	健康上心配がない	118	27.9%
3	おおむね健康	143	33.8%
4	調子が悪い時がある	64	15.1%
5	調子が悪い	9	2.1%
99	無効回答	13	3.1%
合計		423	100.0%



Q.26 自分の健康を気遣っていますか？

これも前回調査までと大きな変化は見られず、「普通」が大半を占めている。「気をつけている」分類も約4割あり、健康に対する意識はやや高いといえる。

健康についての気遣いは？		人数	構成比
1	非常に気をつけている	43	10.2%
2	少し気をつけている	121	28.6%
3	普通	170	40.2%
4	あまり気にしない	51	12.1%
5	全く気にしない	22	5.2%
99	無効回答	16	3.8%
合計		423	100.0%

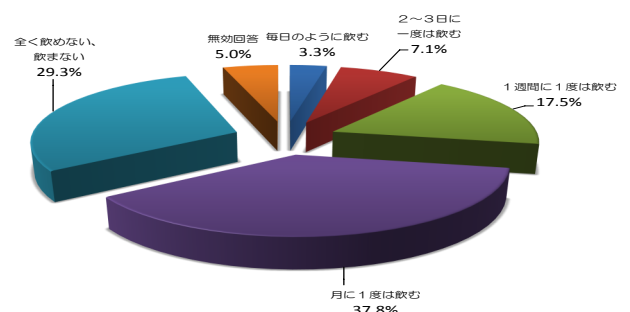


Q.27 普段どのくらいお酒を飲みますか？

例年の調査同様、「月に1度は飲む」と「全く飲めない、飲まない」の割合が高く、日常的に飲酒を行う学生は少ないことが分かる。大学生生活は多くの学生にとって、初めて飲酒

の機会に触れる時であり、正しい飲酒の知識と、自身にとっての適切な量を把握することが大切である。

飲酒について		人数	構成比
1	毎日のように飲む	14	3.3%
2	2～3日に一度は飲む	30	7.1%
3	1週間に1度は飲む	74	17.5%
4	月に1度は飲む	160	37.8%
5	全く飲めない、飲まない	124	29.3%
99	無効回答	21	5.0%
合計		423	100.0%

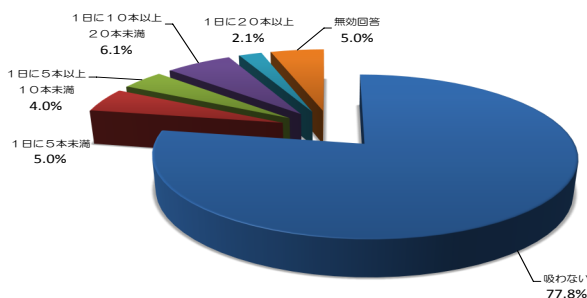


Q.28 普段どのくらい煙草を吸いますか？

前回までの調査に引き続き、被喫煙者の割合が77.8%と大半を占めた。喫煙はこれまで健康被害が大きくクローズアップされてきたが、昨今では就職活動においても不利とな

ることがあると指摘されている。大学としては今後も、喫煙がもたらす影響について啓発を続けていきたい。

喫煙について		人数	構成比
1	吸わない	329	77.8%
2	1日に5本未満	21	5.0%
3	1日に5本以上10本未満	17	4.0%
4	1日に10本以上20本未満	26	6.1%
5	1日に20本以上	9	2.1%
99	無効回答	21	5.0%
合計		423	100.0%

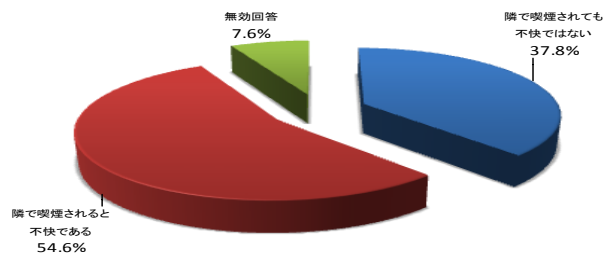


Q.29 喫煙所以外での喫煙についてどのように感じますか？

本設問も前回調査とほぼ同じで、「隣で喫煙される不快である」が54.6%と過半数を占めた。本項目は、指定場所以外での喫煙に関する嫌煙調査であり、他のアンケート調査で

も例年注意喚起を行って欲しい旨の意見が多く寄せられる。今後も喫煙マナーキャンペーンを継続実施し、全ての学生が快適に過ごせるキャンパスを構築していきたい。

嫌煙について		人数	構成比
1	隣で喫煙されても不快ではない	160	37.8%
2	隣で喫煙されると不快である	231	54.6%
99	無効回答	32	7.6%
合計		423	100.0%

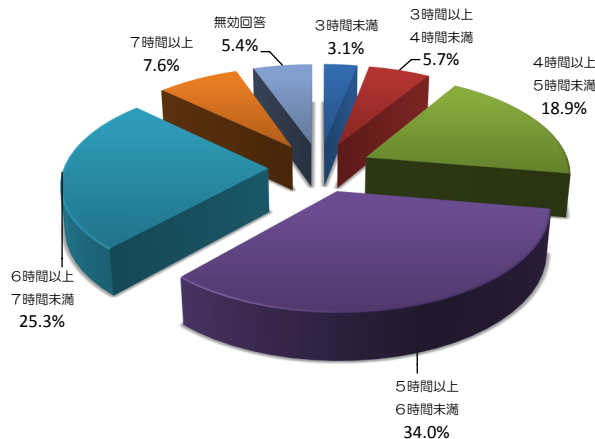


Q.30 普段の睡眠時間はどのくらいですか？

昨年度までと同様に「5時間以上6時間未満」の割合が34.0%と最も高かった。厚生労働省の調査によると、成人の睡眠時間は6.5時間～7.5時間がボリュームゾーンであ

り、約1/3の人がここに属しているという。ここから本結果を比較すると、本学の学生には睡眠時間が短い人が多いといえる。

睡眠時間について		人数	構成比
1	3時間未満	13	3.1%
2	3時間以上4時間未満	24	5.7%
3	4時間以上5時間未満	80	18.9%
4	5時間以上6時間未満	144	34.0%
5	6時間以上7時間未満	107	25.3%
6	7時間以上	32	7.6%
99	無効回答	23	5.4%
合計		423	100.0%



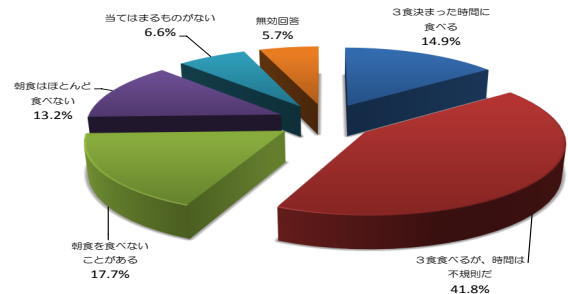
悩み・健康について

Q.31 自分の食生活について一番あてはまるものは何ですか？

これも昨年度までと同様「3食食べるが、時間は不規則だ」の割合が41.8%と最も高かった。大学生は高校生までと違い、時間割の組み方次第で通学時間も大きく変わることが原因の一つであると考えられる。また、本学では学生の指

導の一環として食育にも力を入れており「ひとり暮らしのための料理教室」（自宅生でも参加可能）を定期的を開催している。

	食生活について1番あてはまるものは？	人数	構成比
1	3食決まった時間に食べる	63	14.9%
2	3食食べるが、時間は不規則だ	177	41.8%
3	朝食を食べないことがある	75	17.7%
4	朝食はほとんど食べない	56	13.2%
5	当てはまるものがない	28	6.6%
99	無効回答	24	5.7%
	合計	423	100.0%

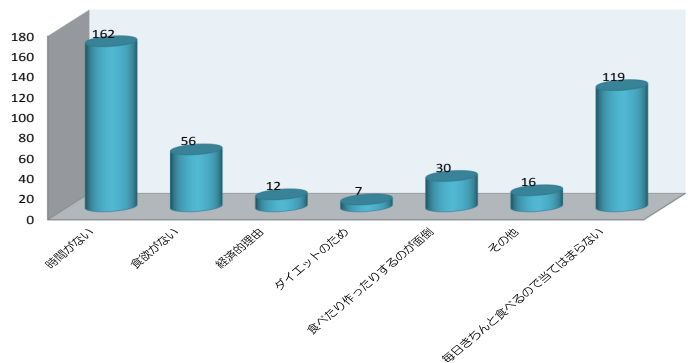


Q.32 朝食を食べない理由は何ですか？ ※複数回答可

朝食を食べないことがある場合の理由については、前回までと同様「時間がない」を選択する学生が最も多かった。しかしこれは起床時間を早めることで解決できる問題であり、

朝食の有用性についてもさることながら、社会人になってから必要とされる自己管理についても意識づけしていく必要もあるだろう。

	朝食を食べないことがある場合、その理由は？	人数
1	時間がない	162
2	食欲がない	56
3	経済的理由	12
4	ダイエットのため	7
5	食べたり作ったりするのが面倒	30
6	その他	16
7	毎日きちんと食べるので当てはまらない	119
	合計	402



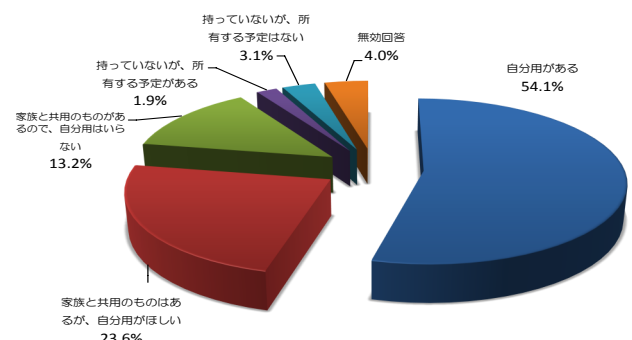
情報関連について

Q.33 パソコンを持っていますか？

今回も「自分用がある」の割合が54.1%と高い割合となったが、2割の学生が自分用のパソコンが欲しいにも関わ

らず、所有できていない状況にあり、普及率100%にはまだ時間を要するものと思われる。

	パソコン保有状況	人数	構成比
1	自分用がある	229	54.1%
2	家族と共用のものがあるが、自分用がほしい	100	23.6%
3	家族と共用のものがあるので、自分用はいらない	56	13.2%
4	持っていないが、所有する予定がある	8	1.9%
5	持っていないが、所有する予定はない	13	3.1%
99	無効回答	17	4.0%
	合計	423	100.0%



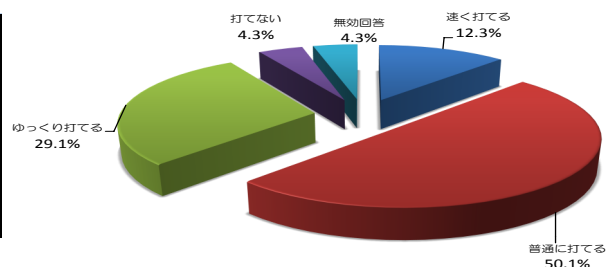
情報関連について

Q.34 タイピング能力はどの程度ですか？

スマートフォン普及にともなうパソコン離れによるタイピング能力低下が懸念されたが前回までと同様「普通に打てる」の割合が50.1%と最も高い割合となった。レポートや授業内プレゼンテーション資料の作成など、学習面での利用

頻度の増加だけでなく、SNSやインターネットなどの趣味においてもタイピングの機会が多い状況に変化がないことが要因であろう。

	ワープロ習得状況	人数	構成比
1	速く打てる	52	12.3%
2	普通に打てる	212	50.1%
3	ゆっくり打てる	123	29.1%
4	打てない	18	4.3%
99	無効回答	18	4.3%
合計		423	100.0%

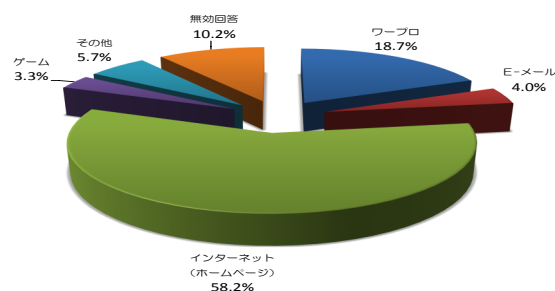


Q.35 パソコンをどんな目的で使いますか？

パソコンの利用目的については、前回までの調査と同様に「インターネット（ホームページ）」の割合が58.2%と

最も高い割合を占めた。続いてワープロが18.7%と続くのも同様である。

	パソコンの主たる利用目的	人数	構成比
1	ワープロ	79	18.7%
2	E-メール	17	4.0%
3	インターネット（ホームページ）	246	58.2%
4	ゲーム	14	3.3%
5	その他	24	5.7%
99	無効回答	43	10.2%
合計		423	100.0%

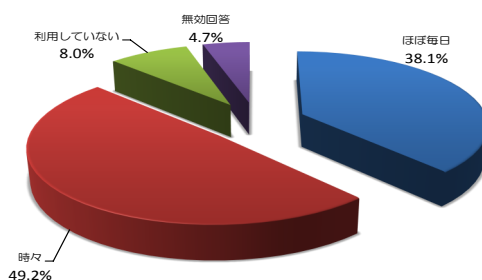


Q.36 インターネットの利用頻度はどのくらいですか？

数年前から無効回答を除くと「ほぼ毎日」「時々」の合計が9割以上となっている。2011年度秋学期には、学内無線LANアクセスポイントが刷新され、キャンパス内各地でWi-

Fi接続利用が可能となり、学内でのインターネット環境は格段に向上している（但しWi-Fi接続については2014年8月末日にサービス停止予定）。

	インターネットの利用は？	人数	構成比
1	ほぼ毎日	161	38.1%
2	時々	208	49.2%
3	利用していない	34	8.0%
99	無効回答	20	4.7%
合計		423	100.0%



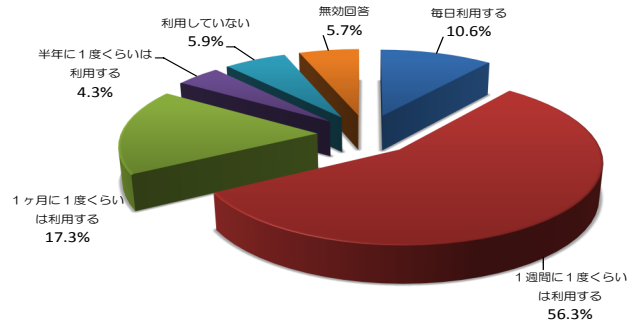
情報関連について

Q.37 本学のホームページを利用しますか？

本設問では、2011年度よりWeb履修登録やポータルサイトの運営（M-Port）が始まったことで、利用頻度の大幅な向上が見られた。今回調査でも、「毎日利用する」の割合が△5.9ポイントで10.6%、「1週間に1度くらいは利用す

る」の割合が+9.4ポイントで56.3%という高い水準を維持している。

	本学のホームページは？	人数	構成比
1	毎日利用する	45	10.6%
2	1週間に1度くらいは利用する	238	56.3%
3	1ヶ月に1度くらいは利用する	73	17.3%
4	半年に1度くらいは利用する	18	4.3%
5	利用していない	25	5.9%
99	無効回答	24	5.7%
	合計	423	100.0%

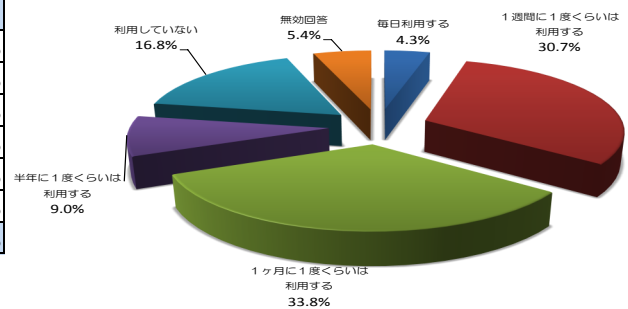


Q.38 情報センターの自習室（PCロビー室含）をどのくらい利用しますか？

前回調査とほとんど変化がみられない結果となった。「1ヶ月に1度くらいは利用する」の割合が33.8%と最も高く、次いで「1週間に1度くらいは利用する」が30.7%と

なっている。パソコン所有率向上が鈍化傾向にあるため、自習室利用状況についてもさほど大きな変化はみられないようだ。

	情報センター自習室（PCロビー含）の利用	人数	構成比
1	毎日利用する	18	4.3%
2	1週間に1度くらいは利用する	130	30.7%
3	1ヶ月に1度くらいは利用する	143	33.8%
4	半年に1度くらいは利用する	38	9.0%
5	利用していない	71	16.8%
99	無効回答	23	5.4%
	合計	423	100.0%

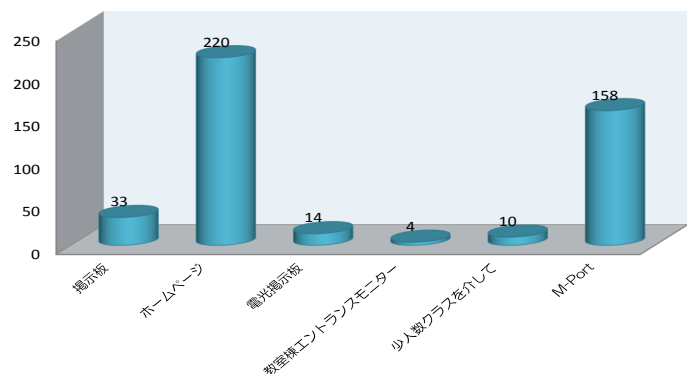


Q.39 本学からの情報はどこで取得していますか？ ※複数回答可

例年通り、情報の取得先としてホームページが最も多いとの結果となった。M-Portの導入から2年以上が経過し、学生にも情報の取得先としてある程度認知され、次いでM-Port

も高い割合となった。またスマートフォンやパソコンを所有していない学生のために、教務課や学生支援課等の窓口にもM-Port専用端末を設置している。

	本学からの情報はどこで取得していますか？	人数
1	掲示板	33
2	ホームページ	220
3	電光掲示板	14
4	教室棟エントランスモニター	4
5	少人数クラスを介して	10
6	M-Port	158
	合計	439

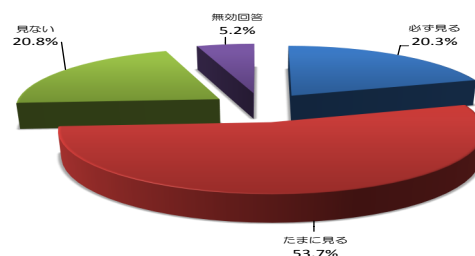


情報関連について

Q.40 本学から送信されたメールを見えていますか？

M-Port導入によって一斉メールが段階的に廃止されることとなり、学生全体に送るメール量は減少している。これらの影響からか「必ず見る」の割合は減少傾向にある。

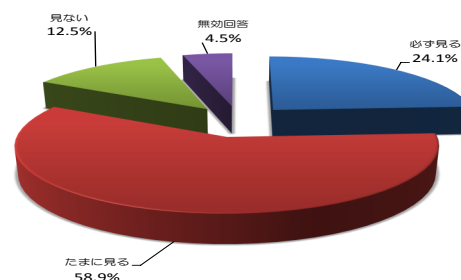
	本学から送信されたメールは見えていますか？	人数	構成比
1	必ず見る	86	20.3%
2	たまに見る	227	53.7%
3	見ない	88	20.8%
99	無効回答	22	5.2%
	合計	423	100.0%



Q.41 M-portのお知らせは見えていますか？

今年度調査より追加した項目である。「必ず見る」、「たまに見る」の合計が8割を超えており、M-Portも定着したといえる。

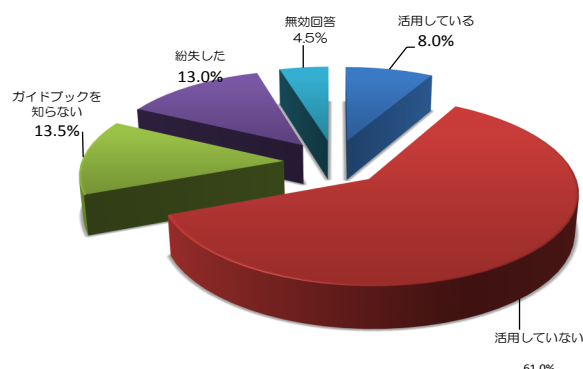
	M-portのお知らせは見えていますか？	人数	構成比
1	必ず見る	102	24.1%
2	たまに見る	249	58.9%
3	見ない	53	12.5%
99	無効回答	19	4.5%
	合計	423	100.0%



Q.42 Campus Guide(入学時に配布される学生生活に関わる総合ガイドブック)を活用していますか？

今年度調査より追加した項目である。本学では新生が大勢となり、本結果を踏まえ、より認知できるよう冊子のWEB化について検討していきたい。

	Campus Guideを活用していますか？	人数	構成比
1	活用している	34	8.0%
2	活用していない	258	61.0%
3	ガイドブックを知らない	57	13.5%
4	紛失した	55	13.0%
99	無効回答	19	4.5%
	合計	423	100.0%



Q.43 学生生活の中で、どのような手続きをすべきかわからないことがあった場合、どう対処していますか？

今年度調査より追加した項目である。「Q23」同様に身 近な存在である「先輩・友人」に相談する割合が多い結果と

	学生生活の中で、どのような手続きをすべきかわからないことがあった場合、どう対処していますか？	人数	構成比
1	先輩や友人に相談する	171	40.4%
2	指導教員に相談する	54	12.8%
3	担当事務所管に相談する	73	17.3%
4	ホームページで調べる	26	6.1%
5	M-portで確認する	57	13.5%
6	CampusGuideで調べる	2	0.5%
99	無効回答	40	9.5%
	合計	423	100.0%

